

フィリピンでブロック造

産官協力でセミナー開催

北海道建築技術協会

北海道建築技術協会（会長＝石山祐二氏）は11月16日、フィリピンのノボテルマニラアラネタセンターで開催されたフィリピン構造技術者協会主催の国際会議で「フィリピンにおける安全なコンクリートブロック造セミナー」を開催した。フィリピンに多いブ

ック造建築物の、災害安全性向上に向けた技術協力を官民で推進する狙いがある。

セミナーにはフィリピン国内外の技術者300名が参加し、日本側から国土交通省住宅局の杉田朋哉係長をはじめ、北海道建築技術協会の石山祐二会長、米澤稔



常任理事、榎府龍雄委員が、日本における空洞コンクリートブロック（CHB）の規格や構造基準、高品質なCHBの製造技術、CHB造の工法や建築事例等を紹介し、フィリピンの実情に即した安全かつ合理的なCHB造の改善工法を提案した。

またフィリピン側からは、フィリピン構造技術者協会（ASEP）のロナルド・サントス・イソン会長が、フィリピンでのCHB造に関する構造基準の現状や近年の地震被害品質改善に向けた取り組みと課題等について説明。さらに相次ぐ地震被害を受けて11月、ドゥテルテ大統領がCHBを規格認証対象品に指定し、CHBの品質改善を図るよう政府



またフィリピン側からは、フィリピン構造技術者協会（ASEP）のロナルド・サントス・イソン会長が、フィリピンでのCHB造に関する構造基準の現状や近年の地震被害品質改善に向けた取り組みと課題等について説明。さらに相次ぐ地震被害を受けて11月、ドゥテルテ大統領がCHBを規格認証対象品に指定し、CHBの品質改善を図るよう政府



日本製(手前)とフィリピン製のブロック

に指示したと報告した。

フィリピンでは戸建て住宅などにCHBが広く使用されているが、大部分は簡便な設備で製造された低品質のCHBで品質管理も不十分。またフィリピンでは、CHB造の強度確保に関する基準や検査体制等の整備が不十分で現地CHB造の多くは脆弱なため、地震や台風に対する安全性の確保が課題となっている。

このような状況を踏まえ、長年にわたりブロック造建築の技術開発や普及推進で実績を持つ北海道建築技術協会では、国土交通省の支援事業を活用した活動を開始。フィリピンの構造基準作成主体で

あるASEPの協力も得て、フィリピンのCHB造建築の安全性向上や日本の関連企業の海外展開促進を目的とした調査・技術検討等に取り組んでいる。

今年10月には現地政府、ASEP、CHB製造企業、商工会議所の技術者等を日本に招き研修を実施。日本のコンクリートブロック製造工場や施工現場、建築現場の見学を行い、高品質で強度の高いコンクリートブロックを用いた災害に強いブロック造技術について、現地技術者の理解を深めた。セミナー参加者からは、日本の製造技術や提案のあった現地向け改善工法に高い関心が寄せられ、活発な議論が行われた。またフィリピンのブロック造構造基準の策定に向けた技術協力にも強い期待が示されたという。

国土交通省では、北海道建築技術協会の取り組みを通じて、フィリピンのCHB造建築の安全性が向上すると共に、高品質なCHB製造に必要な設備の販売や高品質な製品及びCHB造住宅の供給など、CHB製造や住宅供給分野における日系企業の事業展開に向けた環境整備が期待できるとしている。

今年10月には現地政府、ASEP、CHB製造企業、商工会議所の技術者等を日本に招き研修を実施。日本のコンクリートブロック製造工場や施工現場、建築現場の見学を行い、高品質で強度の高いコンクリートブロックを用いた災害に強いブロック造技術について、現地技術者の理解を深めた。セミナー参加者からは、日本の製造技術や提案のあった現地向け改善工法に高い関心が寄せられ、活発な議論が行われた。またフィリピンのブロック造構造基準の策定に向けた技術協力にも強い期待が示されたという。



2013年の地震で被災した現地のブロック造住宅



コニットの品質が粗悪であり強くない地震動でも壁面が崩壊